

## 特別支援学級における学校放送番組を活用した道徳学習

神奈川県横浜市立仏向小学校 教諭 東森 清仁

### 特別支援学級 道徳 「新・ざわざわ森のがんこちゃん」

#### 【番組紹介】

がんこちゃんは園児から小学校低学年の児童が楽しみながら道徳を学べる番組として制作されている。各話の中で登場人物になりきり、番組内の課題についてどのような心情なのかを対話的に学ぶことを通して、道徳的価値に気付くことができるよう構成されている。

#### 【授業デザイン】 主題名：個性の伸長

##### 1 導入「日常の振り返り」

自分が得意なことや苦手なことについて普通の生活を振り返りながら考え、それぞれの意見を出し合いながら本時の学習についての意欲を高める。

##### 2 課題把握

番組視聴の前に、視聴のポイントをNHK for Schoolの指導用資料「スライドショー」を活用し、児童に説明するとともに活動の見通しをもたせる。

##### 3 番組視聴

番組視聴後に、NHK for Schoolの指導用資料「重要シーン」から資料を印刷したものを掲示しながら、本時の中心人物となる「ピロ」の気持ちの変容について考える。

#### 第2回「バンバンののがてなこと」

##### 発問

- ・笛をうまく吹けないことを指摘されたときの気持ち
- ・人と違うのは当たり前と助言されたときの気持ち
- ・笛をうまく吹けるようになった時の気持ち



ピロの心情の変化を追いかける中で、ピロのもつ良さに目を向ける。

##### 4 まとめる。

ピロのもつ良さについての気づきを基に、自分の特徴について考える。得意なことや苦手なことに加え、友だちとのかかわり方などの内面的な部分にも目を向けさせ、個性の違いについて考える。

#### 【学級の実態】

本学級では今年度より低学年児童1名、中学年児童6名、高学年児童6名が一つの教室で活動に取り組んでいる。

学齢や特性の違う仲間との関わりの中で、それぞれの個性を認め合い、お互いを尊重して生活することが大切である。

#### 【今回の実践における番組効果】

- 情緒に訴え、望ましい心情や態度を育てる。
- 教師に指導上の示唆や規範を与える。
- 表情や声色から、人物の心情を理解する能力が高まる。

#### 【深い学びに関する教師の工夫】

新学習指導要領「特別の教科 道徳」では、低学年でも「個性の伸長」が扱われることが明記され、「自分の特徴に気付くこと」がその内容として示された。

自分の特徴に気づき、その良さを伸ばしていくことを深い学びの中で実践していくためには、学級の中での対話が重要である。本実践では、深い学びを実現するために下記のような点に留意した。

#### 中心となる人物の焦点化

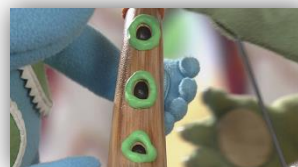
それぞれの登場人物の心情を読み解くのではなく、物語の中心となる人物を焦点化して心情の変化を追いつながりながら道徳的な判断力、心情について考えを深められるようにする。



#### NHK for Schoolの指導用資料の活用

児童に学習の見通しをもたせるために、本時の登場人物、あらすじ、視聴のポイントとなる場面についてNHK for Schoolのスライドショーを使用して知らせる。

また、番組視聴後の振り返りの場面では同じく重要場面を印刷しておいたものを掲示し、それぞれの場面をより具体的にイメージしながら対話し、道徳的価値や判断力について考えることができるようにする。



#### 【成果と課題】

本実践では具体的な場면을提示しながらスモールステップに区切って心情の変化を追うことで、児童がより活発に発言する様子が見られた。本時の終末では自分の個性について言語化することで自分の個性をとらえるだけでなく、お互いの個性を理解し、共有することができた。また、番組の中のピロの笛に工夫をして吹きやすくする場面では、それぞれの個性に合わせた支援・工夫が必要であることも捉えることができた。

実践の中で、自分の個性に目を向けることがお互いの良さを認め合うことにもつながると感じられたが、日常の中で意識し、道徳実践力を高めていくためには継続的に本時の内容を振り返るような工夫が必要である。